

三條別院のご案内

真宗大谷派 三條別院

TEL : 0256-33-0007

Email : sanjo-betsuin@wing.con.ne.jp

三條別院に想う

小学校四年生の時、父親に連れられて、知らないお寺で知らないおじさんの前で正信偈を読んだ記憶がうつすらとあります。あの場所が三條別院で、内容が得度考査だったことを知ったのは随分と後のことでした。

それから長い時間を経て、私が三條別院に足を運ぶようになったのは、三條教務所の職員の方に教区の委員会のメンバーにならないかと声を掛けていただいたことがきっかけでした。八年前のことです。長らく自坊を離れていたこともあり、得度考査以来別院にご縁がなかった私にとつて、それはたいへんありがたいことでした。以来、別院や教区の会議の末席を汚しておられます。委員としては全くお役に立ちませんが、別院・教区と関わる中で多くの皆様と知り合うことができ、公私ともに交流を持たせていただいておりますのはそのおかげであり、かけがえのない出会いをさせていただいたと感謝しております。

別院にお邪魔するたびに思うことがあります。それは職員の方々、別院に足を運ぶ僧侶・門徒の方々の別院に対する熱い想いです。「別院愛♥」とでも表現できるでしょうか。それをすごく感じます。これまでの歴史・伝統をしっかりと

と守りつつ、現代社会における別院の存在意義とは何だろうかという問いを皆で共有していることが伝わってきます。

別院が地元の人々から信頼され愛され親しまれ尊ばれていることも素晴らしいことです。これはひとえに先輩方の努力によるものでしょう。先達により護持・相続されてきた三條別院が、崇敬の場としてこれからも私たち門徒の拠り所となりますよう、微力ながら何かお手伝いができるばと思います。

参道に立派な鍮起銅器製の駒札が立柱されました。来年、立派な御遠忌法要が勤まり、そこにお参りさせていただくことを楽しみにしています。

(第十四組 西楽寺 春日 崇氏)

○次回の「三條別院に想う」は、

草間 あつ子 氏 (第十一組 騰覽寺) より

ご執筆いただきます



■朝の人生講座・夏の御文のご案内

本年も左記のとおり朝の人生講座・夏の御文を開催いたします。

清々しい朝のひと時を仏法に触れながら三條別院で過ごしてみませんか。

◇日時 八月二十二日(金)～二十五日(月)

午前六時 晨朝 夏の御文拝読

午前六時三十分 人生講座

◇場所 三條別院仮本堂

◇講師

二十二日 佐々木秀英氏 (第十組 光圓寺)

二十三日 中島義紘氏 (三條真宗学院講師)

二十四日 安富信哉氏 (教学研究所所長)

二十五日 光井栄泉氏 (第十六組 願善寺)

※人生講座終了後、簡単な朝食をお配りいたします。

※詳細は来月発送の案内チラシでご案内します。

■女性僧侶の音楽法要習礼はじまる

本年も例年通り、十一月に三條別院お取り越し報恩講が勤められます。本年は御遠忌記念事業である本堂修復工事が十月二十五日に完了予定であり、十一月三日に御本尊動座式が執行され、五日には、例年行っている音楽法要を本堂御修復完了奉告法要としてお勤めいたします。また、来年五月十九日～二十四日の御遠忌法要に向けまして、この四月十六日に音楽法要相談説明会が行われ、これまで音楽法要習礼に参加いただいた方、出仕された方を対象にご意見をいただきました。

その結果、例年より習礼を早め、回数を増やす、時間を十四時～十六時とする、ということが決定されました。また、装束については、従来は直綴・墨袷袷で勤められておりましたが、御遠忌法要は裳附・五条袷袷で勤めるということになりました（今年の報恩講は直綴・墨袷袷。貸出用の裳附・五条袷袷もご用意させていただく計画ですが、ゆくゆくは内陣出仕をしていただけるように、持っていない方は、ご自身の裳附をご用意していただければ一番良いと考えております。



【6月30日に第1回の習礼を開催】

説明会の際に、これまで習礼に参加して下さった方々を中心に、お互いに誘い合い、また衣体の件につきまして説明くださるといふことが確認されました。今回、参加者がまだ二十名弱ですので、お声掛けいただき、五十人・六十人と参加者を増やし、御遠忌への機運を高めて参りたいと存じますので、宜しくお願い申し上げます。

◇習礼期日 七月十八日、九月三日、九月十六日、十月八日、十月十七日、十月二十四日、十月二十八日

◇講師 多田 誓 氏

（第十組専徳寺・報恩講実行委員会法要部委員）

※習礼に参加希望の方は、別院までご連絡ください。詳細は既送の「案内」を参照ください。

■御命日（二十八日）の集い

宗祖親鸞聖人の御命日であり、ます毎月二十八日に、「御命日の集い」を本堂にて、日中法要と法話、その後、座談会の場を開いております。本堂修繕に伴い、一年間仮本堂（同朋会館二階）でのお勤めとなります。

どなたでもお参りいただけます。皆様のご参詣をお待ち申し上げます。

なお、前日（二十七日）はお速夜法要を、午後一時三十分よりお勤めをしております。

【七月二十八日（月）】

午前十時 お勤め（御命日 日中法要）

文類偈 行四句目下
念仏讃 洵五
和讃 回口 次第六首
回向 願以此功德



【6月の講師土屋真氏】

◎今月の法話講師

村山 まみ 氏（真宗学院第一期卒業生）
～日本文学と仏教①～

※「日本文学と仏教」というテーマで、七月の御命日のつどい・八月の人生講座・九月の秋彼岸と三人の講師にお話しいただきます（詳しくは「聞法会のご案内」参照）。

◇今後の講師一覧

八月 高橋 深恵 氏（第十一組 願興寺）
九月 西山 郷光 氏（三条教区駐在教導）
十月 村手 淳史 氏（第二十組光圓寺）
十一月 巨谷 学 氏（第十組善了寺）
十二月 北島 栄誠 氏（第十一組長福寺）

■定例法話会のご案内

毎月十二日は、「両度の命日」と呼ばれている前門首のご命日です。また、蓮如上人も御文の中で、この「両度の命日」についてお書きになられています。（四帖目十二通）

旧御堂にて開催しておりましたが、改修工事に伴い、一年間仮本堂（同朋会館二階）での開催となります。皆様、お気軽にお越しください。

◇日時 毎月十三日 ※八月、一月は除く
午後一時三十分より（二時間程度）

◇場所 三条別院 仮本堂

◇講師 七月 井上 正 氏（第十組受徳寺）
八月 休会
九月～十二月



【井上氏は今月が最終回】

富澤慶栄氏（第二十一組超願寺）

※九月からは大盛況に終わった「親鸞となむの大地展」。新潟親鸞学会事務局の富澤氏に、全四回で法話をお願いしております。

別院書道教室のご案内

◇開催日 毎月二回

(第一、第四水曜日)

◇時 間 午後六時三十分～八時

◇講 師 木原 光威氏 (新潟県書道協会理事)

◇月 謝 二五〇〇円 (テキスト代含む)

別院声明教室のご案内

別院を会場に正信偈の稽古を行っております。次回は八月から、詳細は次号にご案内します。

三条別院巡回について

かつて三条別院の御影をお迎えし、各門徒のお宅で聞法会が頻繁に行われておりました。しかし、時代の流れや、世代の交代で今では数えるほどしか行われていません。ご門徒の皆様をはじめ有縁の方にご案内いただき、三条別院巡回がより多くの方々のお念仏をいただく縁となりますことを、願っております。

※巡回の曜日・時間等はできるかぎりご都合に合わせてまいりますので、お気軽にご相談ください。

※現在、宗祖真向御影巡回を行っております。ご希望の場合は**組長経由**でご相談ください。

別院奉仕研修について

先達の篤き御懇念によって護持されてきた三条別院にお越しいただき、その歴史に触れていただくとともに、現代の様々な問題を抱える私たち

が、真宗門徒として親鸞聖人のみ教えに出遇う、そのような奉仕研修会を開いてみませんか。ともに語り合い、人間として生きる意味を尋ねていく場となればと考えております。

○日程及び内容について、ご要望等ございましたらご相談承ります。

○奉仕研修会を参加いただく方(団体)の、冥加金は左記のとおりです。

◎冥加金

・日帰り 一、五〇〇円

・一泊二日 二、五〇〇円

◎食事代(昼・夕食は業者発注のため)

・朝食代 五〇〇円

・昼食代 一、〇〇〇円程度

・夕食代 一、三〇〇円程度

私たち、別院有志の会です！(会員の声)

仲間に入れてもらってから約四年程になりました。

当初は毎月交代していた十三日の定例法話会の講師先生も、二ヶ月三回連続の法話となり、お話の内容がわかるようになりました。



法話後、有志の会は本堂の清掃作業、特に夏場の本堂の畳は砂埃で雑巾掛けも大変です。又、境内の草取り、側溝の清掃作業等、ちよつとした事ですが終わった後の満足感がさわやかです。座談会では反省点、今後の奉仕護持についての話でした。行事に使用するお茶入れ「ポット」の数の少ない

こと。多くを必要とするときは「リース」でまかなっているそうです。一度調べればとの話でした。そのような話題が色々ときまします。

又、現在は会員数も少なく、なんとか有志の皆様の入会をされますように募っております。本年もこれから「朝の人生講座」が開かれることです。是非とも多くの方からお集まりいただき、有志の会で語り合ひましょう。お待ちしております。

(土田 隆)

◇◇編集後記◇◇

御遠忌事業の「宗祖御影巡回」で各組を回らせていただいている。担当職員ということで西山駐在教導と同行する機会が多いが、氏がこの間まで本山同朋会館で補導を勤めていたからか、遠方の組に行く時など、道中で喧嘩になりそうになる。「あれ、嫌いなんですよ」というと、「そうだよね」とではなく「それはあんたの思いや」という言葉が返ってくる。『真実』をめぐって話が及んだ時(なんとまあ真面目な話を…)、「確かなものはあると思う」というと「あるのは自分に都合のいい真実だけや」という言葉が返ってきた。しばし沈黙。真宗の御本尊は阿弥陀仏ではなく、「南無阿弥陀仏」であると言われる。自分の声という不確かなものでしか表現できないところに、真宗の御本尊としての深意があるのかもしれない。その時、四月に行われた同朋大会の御本尊、長岡連組のもつ紺地に白抜き「南無阿弥陀佛」が思い浮かんだ。割り切れない思いを抱えて毎日の業務は続く。御遠忌はいろいろ考えさせてくれている。(齋木)